

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	MT	学部・学科	国際教養学部
学 年	3 年	派遣国	オーストリア
派遣大学	ウィーン大学		
期 間	2025 年 10 月 1 日～ 2026 年 6 月 30 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / <u>学外の学生寮</u> / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / <u>2 人部屋</u> / 3 人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	◎
	キッチン	◎	冷暖房	○ (冷房×)	冷蔵庫	◎
滞在費	約 (10 万) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(地下鉄) で、約 (20) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	3 万円	
学用品購入費	1000 円	
交通費	0 円	年の初めに年間乗り放題パス（当時のレートで 15 万くらい）を購入したため
交際費	2 万円	
その他	1 万円	

合計

6 万 1000 円

*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

ウィーンの治安は非常によく、夜出歩いてもほとんど心配はいらなかった。ホームレスは多くいるが、それを除けば薬物中毒者もさほどおらず、交通機関も時間通り動くためとても住みやすい街だと感じた。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他（ ）		
加入期間	（ 11 ）ヶ月間	保険料	（ 計 15 万 ）円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	ÖGK		
加入期間	（ 11 ）ヶ月間	保険料	（ 計 16 万 ）円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町（ **ウィーン** ）

ウィーンはオーストリアの首都であり、国内最大の都市である。ドナウ川沿いに位置し、人口は約 200 万人である。

ウィーンは歴史の長い都市であるが、特にハプスブルク家の中心地として発展した経緯は、街中のいたるところにある歴史的建造物からも良くわかる。音楽の都としても知られ、ウィーン楽友教会やオペラ座では学生料金でも芸術作品が鑑賞できる。カフェ文化はユネスコの世界遺産に登録されており、美味しいコーヒーとケーキが楽しめる。

古い歴史の一方で、国連都市の側面も併せ持っており、国際連合や国際原子力機関などが置かれている。

移民も多いが治安は悪くなく、英語が比較的どこでも通じる印象を持った。

【学業編】

1. 大学情報

大学	ウィーン大学	所在地	Universitätsring 1, 1010 Wien
最寄空港	ウィーン空港	空港からの距離	電車で1時間
空港⇄大学	Flughafen > Praterstern (U2) > Schottentor (U2) *移動手段		
学生数	85,200 人	留学生数	学生の 3 分の 1
学部	カトリック神学部 プロテスタント神学部 法学部 経営・経済・統計学部 情報学部 歴史文化学部 言語文化学部 哲学・教育学部 心理学部 社会科学部 数学部 物理学部 化学部 地球科学・地理学・天文学部 生命科学部 *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	地理学部 *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (10)月～(1)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	授業	授業	空きコマ	空きコマ	授業
午後	授業	授業	授業	授業	授業

② (3)月～(6)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	空きコマ	授業	授業	授業	全休
午後	授業	授業	授業	授業	全休

3. 履修内容

科目	<u>Einführung in die Humangeographie I (人文地理入門 I)</u>		
履修期間	10 月	単位数	3
授業内容／形態	人文地理学の基礎を「経済・都市・文化・政治」の側面から学ぶ授業。教授によるオムニバス形式。ドイツ語。 パワーポイントと予習課題を用いた教授による一斉授業。週 4 回開講の 10 月の 1 か月間集中講義。		
成績	4 (1～5 段階、1 が一番上)		
YCU 振替予定	科目	特講 (国際教養学部留学科目、「人文地理入門 II」と併せて)	
	単位数	2	
	担当教員		

科目	<u>Einführung in die Humangeographie II (人文地理入門 II)</u>		
履修期間	11 月	単位数	3
授業内容／形態	Einführung in die Humangeographie I とアプローチは同様だが、難易度の上がる応用版講義。教授によるオムニバス形式。ドイツ語。 パワーポイントと予習課題を用いた教授による一斉授業。週 4 回開講の 11 月の 1 か月間集中講義。		
成績	4		
YCU 振替予定	科目	特講 (国際教養学部留学科目、「人文地理入門 I」と併せて)	
	単位数	2	
	担当教員		

科目	<u>Stadtgeographie und Raumordnung (都市地理学・空間計画論)</u>		
履修期間	10 月～1 月	単位数	3
授業内容／形態	都市地理学と空間計画を学ぶ専門科目。ウィーン大学の授業だが、ウィーン工科大学の教授が担当する。専門家によるゲストレクチャーもある。ドイツ語。 パワーポイントと予習課題を用いた教授による一斉授業。オンライン ZOOM を用いて行う。		
成績	3		
YCU 振替予定	科目	特講 (国際教養学部留学科目、「日本の地理」と併せて)	
	単位数	2	
	担当教員		

科目	<u>Einführung in die Politische Geographie (政治地理学入門)</u>		
履修期間	10月～1月	単位数	3
授業内容／形態	政治地理学の入門講義。地理的分析を通して歴史上の出来事や現代の政治課題・国際関係を考える。ドイツ語。 パワーポイントと予習課題を用いた教授による一斉授業。		
成績	3		
YCU 振替予定	科目	特講(国際教養学部留学科目、「地域開発の基礎とアプローチ」と併せて)	
	単位数	2	
	担当教員		

科目	<u>Periphere und zentrumsferne ländliche Räume (農村地理学)</u>		
履修期間	10月～1月	単位数	3
授業内容／形態	農村地理学の専門講義。農村空間におけるファクター（経済・居住・文化など）を各講義で学んでいく。ドイツ語。 パワーポイントと予習課題を用いた教授による一斉授業。		
成績	3		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	<u>Landeskunde Japans (日本地理)</u>		
履修期間	10月～1月	単位数	3
授業内容／形態	日本の地理を学ぶ講義。日本学科開講の科目であり、基本的には私達が小～高校で習う地理と内容は一致しているが、政治問題等も絡めて進められる科目。ドイツ語。 パワーポイントと予習課題を用いた教授による一斉授業。		
成績	3		
YCU 振替予定	科目	特講(国際教養学部留学科目、「都市地理学・空間計画論」と併せて)	
	単位数	2	

	担当教員	
--	------	--

科目	Südostasien im Fokus: Aktuelle Forschungen und neue Perspektiven (南アジアの最新研究)		
履修期間	3月～6月	単位数	5
授業内容／形態	南アジアを取り巻く環境について、政治・環境・地理・法学などの多様な側面から学ぶオムニバス形式の講義。ドイツ語。 パワーポイントと予習課題を用いた教授による一斉授業。		
成績	3		
YCU 振替予定	科目	東南アジア研究	
	単位数	2	
	担当教員	柿崎一郎	

科目	Einführung in die Europäische Ethnologie (ヨーロッパ民俗学入門)		
履修期間	3月～6月	単位数	5
授業内容／形態	ヨーロッパ民俗学科開講の入門講義。ドイツ語。 パワーポイントと予習課題を用いた教授による一斉授業。少人数のためグループワークあり。		
成績	3		
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科）	
	単位数	2	
	担当教員		

科目	Übung zur Stadtgeographie und Raumordnung (都市地理・空間計画の実践講義)		
履修期間	3月～6月	単位数	5
授業内容／形態	都市地理学と空間計画を元にした都市研究の実践講義。ドイツ語・英語。 基本的にはグループワークが中心で進められ、授業外でフィールドワークなどに出かける必要がある。		
成績	1		
YCU 振替予定	科目		

	単位数	
	担当教員	

科目	(大学院) Transdisciplinary and Comparative Theories or Methods in Urban Studies (都市研究メソッド)		
履修期間	3 月～6 月	単位数	5
授業内容／形態	GIS やパイソンなどデータを用いて都市研究を行う際の技法を実践を交えて学ぶ。英語。 パソコンルームで実際に手を動かしながら行う。基本個人だがグループワークもあり。		
成績	2		
YCU 振替予定	科目	都市解析	
	単位数	2	
	担当教員	後藤寛	

科目	Grundzüge der Bevölkerungsgeographie (人口地理学の基礎講義)		
履修期間	3 月～6 月	単位数	3
授業内容／形態	人口地理学の専門講義。人口地理学に関わる全般的な知識を学ぶ講義。ドイツ語。 パワーポイントと予習課題を用いた教授による一斉授業。		
成績	5		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Grundlagen und Ansätzen der Regionalentwicklung (地域開発の基礎とアプローチ)		
履修期間	3 月～6 月	単位数	3
授業内容／形態	特に EU 圏の地域開発について学ぶ講義。事例を元にケーススタディを通して進められる。ドイツ語。 パワーポイントと予習課題を用いた教授による一斉授業。		
成績	3		

YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目、「政治地理学入門」と併せて）
	単位数	2
	担当教員	

科目	Spezielle Felder: Von Arbeiterkultur zu Arbeitskulturen（特講：労働者文化から労働文化へ）		
履修期間	3月～6月	単位数	3
授業内容／形態	ヨーロッパ民俗学科が提供する特講で、特に近代のヨーロッパにおける労働者文化から労働文化への変化を学ぶ。ドイツ語。 パワーポイントと予習課題を用いた教授による一斉授業だがグループワークもあり。		
成績	4		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

高校時代に 1 年間の留学経験（スイス）があった私は、それが自身のアドバンテージであると考えていた。心のどこかで、その時素晴らしい経験が出来たのは、「自らの努力よりも周囲の環境に恵まれたからだ」と分かっているにも、当時の美化された記憶をもとに自分を過信していた側面があったと思う。

ウィーンで一人暮らしを始め、住民登録、銀行口座開設、保険契約、ビザの取得、大学での勉強…という終わりの見えない新しいチャレンジをしていく中で、全くの 1 人の私は何をすることも不器用でナーバスになり、浮き沈みする感情のコントロールができない未熟者だと痛感する毎日を過ごした。既に社会人として働いている同級生や進学をした友人と自分を比べては、「好きなことをして好きな所に住んでいるはずなのに、なぜか悔しいし焦るし虚しい」と感じる場面が多くあった。

そんな時に気持ちを紛らわしてくれたのは大学の授業だった。勉強したいことを、ネイティブ言語ではない（むしろ第三外国語の）ドイツ語で勉強できる。授業のレベルは高くとも、その分新しい知識がどんどん増えていく…。大学生活に慣れていくうちに、私自身の世界に没頭できる時間が増え、周囲と自分を比べることが減ったように思える。時には、「自分を他人と比べることほど無駄な時間はない」とまで自分に言い聞かせられるくらい、毎日が明るかった。やはり、学ぶことが何より好きだと自信をもって言えるようになった。

一方で、遠方から聞く日本のニュースや家族の出来事で心を痛めることもあった。例えば、ウィーンにいた 1 月に曾祖母が亡くなったと聞いたときは、すぐにでも日本に帰ろうかと考えたくらい目の前が真っ暗になった。祖父が 2 回も入院し、祖母は身体が上手く動かずお見舞いにも行けない状態だと聞いたときは、それまで「将来はヨーロッパで学び仕事がしたい」と思い描いていたイメージを一気に破る事も出来た。地震などの自然災害が起きるたびに、日本にいては感じない無力感を感じた。

1 年間の留学を通して、私の中で譲れないもの・変わらないものを再認識できたと同時に、「本当は望んでいたけど、何かと理由をつけて無視していたもの」にも気づくことが出来た。高校留学とはまた別の、比べることもできないくらいの価値ある時間だった。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

今回の長期交換留学を経て、これまで「都市計画」「都市景観」にしかなかった興味が、人文地理学的なアプローチを含んだ「防災地理学」や「防災・復興都市計画」にまで広がった。ある程度の日本の都市計画についての知識を持ちながら母国を離れ、遠く離れたヨーロッパで生活することで、日常的に目にするニュースや出来事に、「日本」の視点を持って接することが出来るようになった。津波や地震に縁のないウィーンでは、それらのある一種の「甚大な自然災害」としか捉えておらず、それが逆に自然災害の不条理さと影響力の大きさについて改めて考える機会を私に与えてくれたのだ。

加えて、留学前に立てていた語学面の目標は「帰国後 C1 を取得できるようドイツ語を向上させる」であったが、実際に 6 月に現地で受けた試験では、スピーキングのみの部分合格となり、完全合格を取ることは出来なかった。そのため、日本にいる内に C1 を取得できるよう、継続的にドイツ語の環境に触れていきたい。

自然災害への関心の深化と語学面のアドバンテージなどを活かせる大学院への進学を現在考えている。ひいては博士課程に進学し、自らの専門知識を現場に伝えらえる働き方をしたいと考えている。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

特に長期留学を希望する学生には、以下の 2 点を強くお勧めする。

1 つは、現地の言語ないしは授業言語を不便のないように上達させておくことだ。留学を通して「言葉が出来るようになった」も 1 つの価値ではあるが、最初から不便なく出来るようになっていれば、現地で参加できるイベントやできることの幅が何倍にも広がると思う。また、非英語圏で「英語も通じる」と言われている国でも、その母国語が国民の生活の基準であることを忘れてはいけない。オーストリアであればドイツ語、フランスであればフランス語など、その国の母国語を学習することが現地の人々への敬意にもなるし仲良くなるきっかけにもなる。

2 つ目にお勧めしたいことは、徹底した情報リサーチを怠らないことだ。特にビザ申請に必要な書類は渡航前にしっかりリサーチし、現地に行った後何をどの順番で行うべきか事前に整理しておくことで、生活のスタートをスムーズにきれると思う。現地で旅行に行くときも、リスクを最小限に抑えるために情報リサーチは必須であるし、その癖を渡航前からつけておくことが大切だと思う。